

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000579		
法人名	株式会社 北欧ハウジング		
事業所名	グループホーム はな		
所在地	北海道北見市桜町6丁目2-1		
自己評価作成日	平成22年9月3日	評価結果市町村受理日	平成22年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://nclp-//system.kai.go.tono=hokkaido.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=0175000579&SCD=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がソファに腰掛け敷地内の畑・花壇を眺め過ごしてしています。理念であります「自由で 楽しく 安心」の基、家族的なケアに努め、食事も大切なケアの一つとして施設で栽培された野菜や隣の大型スーパーでの食材を毎日買い物に出かけ、毎食、7品のおいしい食事を提供できるように努めております。ホームには栄養士の資格を持つ職員がおり栄養面でも配慮されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北見市の南に位置し、近隣には大型のホームセンターを中心とした複合施設があり利便性の良い住宅地域に平成15年に2階建て2ユニットで開設されています。理念を「自由で 楽しく 安心」と近年分かりやすく変更し、利用者の日常が自宅にいるように快適な生活が送れるよう取り組んでいます。美味しい食事は元気の源との法人代表者の考えのもと特に献立には気を遣い毎食7品の食事を利用者、管理者、職員が同じ食事を楽しんでいます。併設の施設としてデイサービスがあり、その利用者とカラオケなどの交流を楽しんでいます。当事業所には協力医、かかりつけ医が多数協力体制にあり複数の医院から往診を受け安心な体制を構築しています。また、グループホームは地域の協力は不可欠との考えのもと避難訓練の協力や、運営推進会議への出席のほか更に絆が深まるような模索を続け体制作りを進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員が話し合う事により、理念を作り上げている。	開設時の理念を「自由で 楽しく 安心」と解りやすく改定し、一層の理念の浸透を目指しています。理念は居間、事務室に掲示して常に意識の元に置くよう心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回して頂くようになり、町内の動きも把握出来るようになった。	町内会に加入しており回覧板も来ています。運営推進会議、災害訓練等行事への参加も得ています。近隣住宅を一軒ずつ訪問して当事業所の状況を説明し理解を得る様努めています。	施設長や職員が町内会行事へ参加をしていますが、近隣住民のグループホームに対する知識が少ないように思います。認知症について正しい認識を持って頂けるような情報を発信する取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の一員としてつき合いをしている。また、町内会でも会議等で施設を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、町内会役員、家族代表で構成され情報交換しながらサービスの向上に努めている。	概ね2ヶ月に1回開催をしています。町内会長、地域包括支援センター担当者、民生委員、家族等が参加し毎回活発な意見交換をしています。議事録は常備しており、欠席した家族等が自由に閲覧できるようにになっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、常に連絡を取り合っている。	市の介護福祉課へ訪問し、常に情報の収集に努めています。施設の使い方など相談をし今後のサービス向上に向けて相談をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束を行なわないように対応しており、全職員で確認して取り組んでいる。	身体拘束についてはどのようなことが対象になるのかをミーティングの中でその都度話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な事例等について体系的にかつ全体での研修に取り組み情報を共有することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを利用して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ該当する人はいないが、該当者が必要になった場合には支援する心構えは出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、需要事項説明書も併せて、わかりやすく説明し、納得を得た上で手続きを進めるよう配慮し、また同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が寄せられた場合は、管理者や職員で話し合いをして、対応に努めている。	家族の訪問時には積極的に話をし、苦情や意見を聞きだす努力をしています。苦情や意見が寄せられた時は、管理者、職員で話し合い、改善に向けて解決するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	打ち合わせ等で、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	施設長、管理者と職員はケア会議を通じて話し合いを持ちコミュニケーションを取っています。ヘルプの一人を除いた職員が正社員でありなんでも話し合える関係が保たれ利用者へも良い影響を及ぼしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険等の加入・処遇改善手当を全額職員に支給又、職員の状況に応じて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の立場、経験に応じて研修の機会を確保し、可能な限り受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等などを通じて、サービスの質を向上させるべき取り組みを、十分とは云えないが実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の際は、不安にならぬよう話をし、納得して頂くように注意して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでは、十分に家族等に説明し、困っている事他、その都度聴く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を確認しながら、その方に合った必要なサービス利用など含めた検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの人格を尊重しながら、性格や状態を把握し、出来る事は一緒に行ってもらうことで、生活に生きがいを見出せるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、なかなか来所できない家族には電話で連絡し、日常生活の様子を伝えることで、家族との信頼関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の今までの生活をくずさぬよう、外出、外泊、面会時を通じて、関係が途切れないよう支援しています。	利用者が大切にしてきた馴染みの関係を大切にしています。友人の訪問や、併設のデイサービスセンターでの交流など関係を保つ支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないよう、共に助け合い、暮らしを楽しめるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、関係を必要とする家族には、相談や支援に応ずるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から一人ひとりの思いや希望を把握し、常に本人の希望に添うよう努めている。把握が困難な場合は関係者で本人の視点に立って検討している。	利用契約前から利用者や家族との話し合いの場を持ち、思いや暮らし方を把握してその人らしい生活が出来るような支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族や関係機関からの情報提供により、生活面の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしの流れに沿って、心身状態、自立度等本人の状況を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、本人に一番適した介護計画を作成している。	利用者、家族と話し合い現状に即した介護計画を作成しています。定期的な見直しと同時に随時現状に見合うように見直しをしケアサービスの向上に努めています。	一人ひとりの介護計画と日々の介護サービスの実践記録を関連づけそれを検証してサービスの更なる向上につなげることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録をとり、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や要望を十分に聴き取り柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、警察、消防等、地域の人や場の力を借りて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医院と連携し、定期的な往診のほか、緊急時の受信等の支援をしている。	今までのかかりつけ医への受診や家族と相談した協力医療機関による往診が行われています。又、利用者の状況により、ソーシャルワーカーや歯科医の往診もあり、適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師のほか、かかりつけの病院の看護師と相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族等と相談しながら医療機関に対して、情報の提供やケアについての話し合いをし、又、退院は病院関係者、本人、家族と話し合い必要な支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と連携を図りながら支援に取り組んでいる。	重度化・終末期に向けた指針の整備がされており、契約時に家族に説明し、確認を得ています。かかりつけ医・協力医療機関と連携を図り、利用者の状況の変化に応じ、家族と話し合いを重ね取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が消防署主催の応急法の講習等を受けたり訓練を受け実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施、また、近隣には、会合等を通じて協力を要請している。	消防署の協力のもと、年2回隣接するデイサービスと合同で避難訓練を実施中、地域住民も参加し協力が得られています。運営推進会議を通し事業所の消防設備を説明するなど、火災防止に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録類は所定の場所に保管しており、個人に関わる情報には十分注意している。	職員は利用者に声かけする際はプライバシーに配慮するよう心掛けています。契約時に家族と個人情報使用同意書を交わすと共に、パンフレットにも個人情報の保護・利用目的を明示しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の状況に合わせた声掛けなどで働きかけ、自分で納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースを大切に、希望に沿った生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個々が希望に沿ったおしゃれを楽しんでもらえるよう支援しており、理容に関しては定期的に訪問してもらい、利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の好みを反映し、また、入居者の行える範囲を把握し、盛り付けや食器拭き等を一緒に行っている。	専属職員が利用者の嗜好を把握し、献立を作成しています。毎食、7品の副食が添えられ、食事内容の充実を図り、利用者の楽しみに繋げています。又、寿司の出前や外食など、様々な工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、食事摂取量や水分量を記録しチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。入れ歯の洗浄は本人で出来る方以外は職員が洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄支援を原則として、日常のデータより個々の排泄パターンを把握し、出来るだけオムツを使用しないよう支援している。	生活記録の中で排泄パターンを把握し、排泄の自立を促すため身体能力を出来る限り活かした支援に努めています。夜間は安眠に繋げるため家族と相談し、おむつの検討が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、毎日確認し、水分補給や運動等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はある程度決めてあるが、入居者一人ひとりの希望にも対応できるように配慮している。	ユニット毎に曜日を交えて週2回の入浴日を設けているほか、利用者の状況や体調確認により本人に合わせた支援をしています。隣接したデイサービスで足浴することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠、休息のパターン及び生活習慣等を確認し、自然なリズムが生まれるよう、環境づくりに全員で配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、入居者個々の薬の情報を確認、理解し、医師の指示に従い間違いの無いよう注意し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来ることを把握し、それぞれ役割分担し、日々の暮らしが張り合いや喜びのあるものになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	冬期間の外出は困難であるが、陽気の良い時期には、散歩、買い物や、施設内の花畑等、戸外に出られるよう支援している。	天気や体調等に考慮しながら散歩やドライブ・買い物・運動会見学・外食など戸外へ出られる機会を設けています。屋外での焼き肉パーティーや花火等も利用者の楽しみに繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に付き添って行き自分で代金を支払えるようなお手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の有する力に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、なるべく家庭的な雰囲気を出す様にし、入居者が描いた絵や行事で撮影した写真等も貼って、家族も気軽に見れる様配慮している。	共有空間は広いスペースで日当たりも良く、明るく開放感があり、生活しやすい環境になっています。居間には観葉植物や季節毎の飾り付け・利用者の写真が貼られており、家庭的な雰囲気作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが落ち着ける場所や、気の合う仲間同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも相談しながら、個室には使い慣れた物や馴染みのもの持ち込んでもらい、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室はゆったりとくつろげる広さで納戸が有り、プライバシーへの配慮がされています。ベッド等馴染みの使い慣れた品々が持ち込まれ、利用者が安心して過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内をバリアフリーで手すりをつけたりし安全になるべく自立した生活を送れるように工夫している又、菜園畑に職員と野菜等を採りに出かける。		